

令和2年度アクションプラン

【アクションプラン1】

重点項目	学習指導（うんとかながえる子・・・知）
重点課題	◆ 活用・探究型授業の実施
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた知識・技能を活用しながら問題を解決していく力に課題がある。 ・必要な情報を取捨選択したり、解決方法を自分で考えたりしながら問題を解決していく力に課題がある。 ・自分の考えを順序立てて分かりやすく発表することに課題がある。
具体目標 数値指数	・学期毎の複数時間設定の問題解決的な学習や新聞を活用した学習の実施率100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習（調べる・まとめる・伝える）や新聞を活用した学習を計画的に実施する。 ・子供たちが「できそう」「挑戦してみたい」「いろいろな方法を知りたい」と思える学習課題を設定する。
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学習参観、学校・学年だより、ホームページ、学年・学級懇談会

【アクションプラン2】

重点項目	生徒指導（なかよくする子・・・徳　きれいなところの子・・・心）
重点課題	◆ 自他を尊重した挨拶や言葉遣いの場の設定
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信がもてず、自己肯定感の低い子供がいる。 ・自分の考えを発表することに対して苦手意識をもつ子供が多い。 ・相手の立場や気持ちを考えた言動がとれず、トラブルになることがある。
具体目標 数値指数	・宇奈月小学校の温かい言葉「あさがおさいた」（相手を認める場面）を広げる時間を毎日教師が設定する実施率90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「あさがおさいたタイム」を活用して、互いに認め合い、折り合いを付けながら生活をしていく関係を築く学校・学級づくりを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">①・・・ありがとう <li style="width: 50%;">②・・・さようなら <li style="width: 50%;">③・・・がんばったね　がんばれ <li style="width: 50%;">④・・・おはよう　おめでとう <li style="width: 50%;">⑤・・・さすがすごいね　さいこう <li style="width: 50%;">⑥・・・いいよ　いっしょにしよう <li style="width: 50%;">⑦・・・だいじょうぶ　たいへんだね </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいと目的を明確にした縦割り班活動を実施し、学年に応じた振り返り活動を行うことで異学年の友達と触れ合うよさを味わう。 ・教育活動全体を通して道徳教育と関連付けて指導する。 ・授業における関わり合いを大切に、相手を認める場を設定する。
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学習参観、学校・学年だより、ホームページ、学年・学級懇談会

【アクションプラン3】

重点項目	保健指導（つよいからだの子・・・体）
重点課題	◆ ゲームやメディア利用の目標設定
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校の影響もあり、ゲームをする時間が増加していると思われる。 ・すこやかチェックの「ノーゲーム・省メディア」の項目の点数が過去2年間を通して学期平均78～86%を推移している。 ・実名でアカウントを登録し、オンラインゲームをする、ネット上に写真や動画の情報を上げる、知らない人とチャットや通話をするなど、個人情報流出の危険性について理解しないまま遊ぶ子供がいる。 ・とやまゲンキッズ作戦で「朝からあくびがよく出る・時々出る」と答える子供の割合が69.4%と高い。
具体目標 数値指数	・週に一度、教師がゲームやメディアとの付き合い方の目当てをもたせる実施率90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会で専門家からの指導を仰ぎ、ゲームが心や体の健康に与える影響について理解する。 ・宇奈月小学校の子供たちのゲームやメディアとの関わり方の実態を把握し、課題を見出す。 ・各学級で考えた取組をランチルームで発表する。または掲示をする。
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学校・学年だより、PTA広報誌、ホームページ、学年・学級懇談会

※各アクションプランの評価については、下記の評価基準によって達成度を判断し、見直し・改善に努める。

- 【評価基準】
- A：達成し、効果的であった。
 - B：ほぼ達成し、やや効果が見られた。
 - C：達成できず、あまり効果が見られなかった。
 - D：達成できず、逆効果だった。